



夢はしよる みんなの人生を豊かにするために

2021-2022年度 国際ロータリー第2730地区 宮崎県中部グループ

## 宮崎アカデミーロータリークラブ 会報

第 80 回例会 2022年 2月 8日

●例会場 オンライン

ロータリーソング 我らの生業 君が代

会長 水居 徹 副会長 原田隆治 幹事 辻 清



### ■会長の時間 水居 徹会長

#### 子ども食堂への支援について

子ども食堂への支援に関しまして、年末よりご案内等をさせていただいておりますが、あらためて子ども食堂について調べましたのでご報告をさせていただきます。

子ども食堂の始まりは、2012年に、東京大田区の「気まぐれ八百屋だんだん」の店主、近藤博子さんという方が作ったのが始まりだそうです。そのきっかけは給食以外の朝や晩ごはん食べられない子どもがいることを知ったことだそうです。「見えない貧困」を目の当たりにして、近藤さんは自分の力でできることは何かということで「子ども食堂」をスタートさせました。その後、東京都豊島区で子ども支援をしていた「豊島子どもWAKUWAKUネットワーク」の栗林知絵子さんが近藤さんの「子ども食堂」を取入れ、そこから急拡大することになったようです。

2017年で全国に150か所あった子ども食堂は、2021年12月で6000か所に拡がりました。これはけっして喜んで良いことではありません。

それではなぜこんなに広がったのかですが、政府が、2009年に初めて相対的貧困率（世帯所得が標準的所得の半分以下の割合）を公表したことで貧困層の存在が表面化したこと、そして実際に子どもの貧困層が増加していることも事実です。ひとり親の家庭が多いことや、共働きで子どもが孤食になって

いることも問題として明らかになってきたことによる動機付けがあると言えるでしょう。

子どもの食事難や孤食の問題は、親の就職問題や離婚問題が深く関わっています。そこにこの2年にもなるコロナ感染症拡大で窮状に拍車がかかっている状況です。

12月に竹井会員が試行されたニシタチ子ども食堂で聞いた話ですが、宮崎でも子ども食堂は増えているそうです。

宮崎においても、子どもの貧困は深刻だそうで、コンビニの倉庫に入って廃棄予定の弁当を盗んでいく子供がいるという話は大変衝撃的でした。宮崎は離婚率が高く、去年のデータでは沖縄、福岡につづいて3位でした。シングルマザーやシングルファザーが多いということです。必ずしもすべての家庭が、子どもの貧困につながるというわけではないでしょうが、祖父母が面倒見てくれとかはあるでしょうが、感染症拡大ではなかなか難しい状況と言えるでしょう。

竹井会員が言われるには大人の食事難もあるそうです。ニシタチ子ども食堂でも大人も対象にしようということでした。中野会員からの話では、学生の食事難も発生しているようです。コロナ禍でアルバイトができず、食費を削っている学生がいるようです。

当クラブでも竹井会員の子ども食堂については積極的に支援をさせていただこうと思っています。

今後、専門の委員会を設置して検討をしたいと思いますが、次のようなことがあると考えています。

- ・寄付等による金銭的な支援
- ・食材や設備など物理的な支援
- ・対応する人員など人的支援

竹井さんの話では、食材は実際に休業や自粛期間の影響で廃棄前のものを使うそうです。設備は既にありますし、調理をされるスタッフもいらっしゃいます。

どちらかという、子ども食堂の存在を子どもや親に知らせるための告知面の支援がほしいということでした。

まん延防止はおそらく延期になると思います。したがって、子ども食堂の食堂としての設営は今月は無理かもしれません。弁当の形で店頭配布する予定とのことです。

持ち帰り用の弁当パッケージやレジ袋はあらたに調達となります。この費用だけでもまずは集めたいと考えています。

そこで寄付を募りたいと思います。このコロナ禍でリアルには集まれませんので、どう集めるかが問題です。

職場や関係する組織等で寄付を集めていただき、事務局に届けていただく方法があるかと思っています。

また、クラブのホームページでカード決済で寄付できる仕組みを作ると以前お話ししましたが、ようやく実現できそうです。

先週、カード決済代行会社の審査が完了しました。早ければ来週にはテストができそうです。ホームページ上に子ども食堂支援の寄付として、1,000円、5,000円、10,000円の3種類の寄付商品を掲載しますので、これを選択していただくことで寄付が行えます。組み合わせることで、1,000円3枚で3,000円というように金額を調整できます。

今後の支援については、さらにみなさんと相談して考えていきたいと思っています。

子どもは国の宝です。もちろん少子化は大きな問題ですが、せつかく生まれてきた子どもが貧困に苦しむ状態はなんとしても変えないといけない大きなテーマと思います。

ロータリーの6つの重点分野として、平和と紛争予防／紛争解決、疾病予防と治療、水と衛生、母子の健康、基本的教育と識字率向上、経済と地域社会の発展があります。昨年これに7つ目の重点分野として環境が追加されました。

子ども食堂支援は、この重点分野にある母子の健康、経済と地域社会の発展の2つの分野にあてはまると思います。ぜひ会員各位のご理解とご支援をいただきたいと存じます。どうぞよろしく願いいたします。

## ■幹事報告

幹事の辻です。

新型コロナウイルスの猛威が治まりません。みなさん、懸命に対策を打っているのに。。。。まん延防止措置の延長が決まりそうだと聞きます。ビジネスに大きな損害を受けている企業、個人の方が多く、一日でも早く落ち着きますように祈るばかりです。

また、新型コロナウイルスに対し、懸命に戦っていらっしゃる医療関係者の皆様、本当に感謝いたします。



### ①国際ロータリー為替レートについて

2022年2月のロータリーレートは、1ドル=115円です。

寄付は、日本事務局に着金した月のRIレートが適用されます。

月末にお振込みされる方がいらっしゃれば、ご注意ください。

### ②鹿児島城西ロータリークラブより連絡先変更のお知らせについて

クラブ事務局の電話番号及びFAX番号が変更になりました。

旧 電話 090-4475-0014

FAX 099-251-5290

新 電話 080-8399-1609

FAX 099-227-2501

お問い合わせの際は、ご注意ください。

### ③2022-2023年度版「ロータリー手帳」予約のご案内について

1部 700円（税込）送料別です。

5月下旬に出来上がる予定です。

メールにて会員の皆さんに案内が届いております。

ご希望の方は、メールに添付されている注文書にご記入の上、2月22日（火）までに事務局へお申し込みください。

#### ④My Rotaryアカウント登録者数について

2月 7日現在 My Rotaryアカウント登録者数 22名/39名中  
56.41%

1月24日現在 My Rotaryアカウント登録者数 15名/39名中  
38.46%

登録完了が出来ていない会員の方には個別にメールをお届けします。  
中には一般登録となっている方もいらっしゃるかもしれません。私からメールが届いた方は、状況をご連絡ください。

#### ■出席報告 クラブ管理委員会 梶田副委員長

##### 本日状況

会員数 39名 オンライン出席18名 欠席21名 出席率46.15%

#### ■卓話 羽佐間 尚久

##### 写真の役割 今までとこれからの変化

##### デジタルカメラの登場

実は、デジカメが初めて誕生したのは  
30年以上前です。 私が初めてみたのは、コダックとニコンが共同で出した  
130万画素のデジカメでした。

しかし、当時高額すぎる上に画質が悪く使い物になりませんでした。  
最近のデジカメは、高画質の上 動画機能もすごいので雲泥の差です。  
それによって写真カメラマンと動画カメラマンの両方が同じカメラで仕事を  
するようになりました。

写真と動画撮影をセットで依頼されることが増えてきた

##### ハイブリットカメラマンの登場

##### メリット

- ・依頼する側は、コストを若干抑えることができる
- ・カメラマンは、一件の撮影の単価をあげることができる

##### デメリット

- ・やるが増えるのでどっちつかずになってしまう

- ・今まで棲み分けていた写真と動画のカメラマンが競合してしまう
- ・結局どちらかが付属になってしまう可能性

記録と伝達です。写真を撮ると言う事は、カメラマンが一眼レフで撮った写真でもスマホで撮った写真でも本質は、記録です。

そして それは、何かを伝達するために行われます。

写真の今までとこれから

特別なものから日常のものへ

先ほど話したように写真とは、記録を残すためのものです。それには、重くて携帯性の悪いものより必ず手元にある速写性に優れたスマホの方が断然有利です。

そういった意味では、写真が持つ元々の役割にあった道具が普及したと言えます。

ですがなんでも撮って発表していいわけでは、ありませんので撮影する個々の良識が問われる事になります。

年齢 性別 分野を問わず 誰もが表現者になりうる時代です。

自分という個性の部分が鍵になっていきます。

## 写真の起源

- ・人間は、石器時代から絵を描くことで物事を伝えようとしていた
- ・動物の絵などを描いてコミュニケーションの手段・呪術的な儀式をおこなっていた
- ・文化の発展と共に美を意識した芸術が生まれはじめる



ジョセフ・ニセフォル・ニエプス  
世界で最初のカメラ  
カメラ・オプスキュラ



ルイ・ジャック・マンデ・ダゲール  
世界初市販カメラ  
ジルー・ダゲレオタイプ・カメラ

カメラの起源であるカメラ・オプスキュラです。この道具は「写真」を撮るものではありませんでした。

壁に開けた小さな穴を通った光が、反対側の壁に届くと、外の景色が映るという光学的原理を利用しその穴をレンズに変えることによってよりはっきりとした画像を映し出し壁画に風景を描いたり被写体を正確に模写するための道具として画家達に用いられていました。

しかし、後にダゲレオタイプカメラの発明、市販化により写真が手軽に保存できるようになり逆に画家達の立場を脅かす存在になる事になります。実際カメラの市販化により失業する画家もでました。



19世紀の画壇で人気を博したポール・ドラロッシュ (1797年~1856年) は、ため息とともに「今日を限りに絵画は死んだ」政府に対してカメラを禁止すると抗議を言うものも多かったです。そんな中 写真の修整、彩色といった仕事に転職した者もいました。ドラロッシュの弟子二人は、19世紀を代表する写真家になっていきます。



ロジャー・フェントン (1819年~1869年)



ギュスターブ・ル・グレイ (1820年~1884年)